

式辞

内海中学生徒諸君。修了 おめでとうございます。

平成三十年度も、いろいろな思い出とともに幕を閉じようとしています。3月5日、3年生が卒業していきりましたが、その後のみなさんの姿は、「一年生、二年生」というのが、似合わないような四月から、大きく成長した姿で、とても頼もしく感じています。

五年間、朝の交差点に立っていますが、先輩たちに負けないほど、爽やかにあいさつができ、横断歩道を歩く時も、運転者への気遣いができ、地域の方とのよい交流の交差点になっており、車の中から、おじぎをしてくれる地域の方も、随分増えました。何気ないことですが、あいさつは、一日のスタートとして、大切にしたいことです。

さて、昨年度から、ずっと「言葉を大切に」という目標を掲げていました。三年生になると、受験で面接があるので、言葉遣いに気をつけるようになるのですが、本当は、普段から、自分の気持ちを正確につたえる言葉の力をもってほしいと思っています。

「うぜえ。」より、「ありがとう、でも今はそつとしておいて。」

「死ぬ。」より、「もう、これ以上見たくないから・・・。」

言葉は発せされた瞬間から一人歩きし、悪意のある人が受け取ると、

攻撃の材料になってしまう場合があります。昔に比べ、SNSなど発信する機会がずっと増えている分、言葉の引き出しを多くもって、適切な言葉が使えるよう心掛けていきたいと思います。

先日のチコちゃんで、「さようなら」の意味を解説していました。例によって、諸説ありますが、別れを惜しむときに、「さようならば、しかたないですね。」の「さようならば」の「ば」を省略して、「さようなら」「ような」を省略して「さらば」となったそうです。単に別れという言葉ではなく、惜しむ気持ちが込められていると知ると、卒業式「仰げば尊し」の歌詞、「いざ、さらば」の意味もより深く、聴く人の心に届きます。音声的なカタカナ言葉でなく、意味が伝わる豊かな言葉で、友達や先生と、コミュニケーションを、しっかりとっていきましょう。中学校生活は、二度と戻らない、かけがえのない宝物になるように。以上、「平成時代」に「いざ、さらば」となる 修了式の言葉とします。四月一日に、新年号が発表されます。どんな二文字になるのか、楽しみにし、時代の節目に生きる喜びを感じながら、充実した春休みを過ごしてください。最後に紹介する言葉は、造語の「永光」、みなさん一人一人の光が、永遠に続くように……。

平成三十一年 三月十八日

内海中学校長 永井 孝夫